

奇跡の薬16の物語



『奇跡の薬16の物語／キース・ベロニーズ著、渡辺 正訳／化学同人 2024年』

著者紹介	著者:サイエンスライター、博士(化学) 訳者:東京大学名誉教授、工学博士
本の内容	我々が普段、世話になっている薬。薬が出来上がるまでには様々なドラマがある。狙って作るものもあれば、偶然や幸運によってできるものも案外数多い。特にそれらが生命や生活、さらには社会に劇的な影響を及ぼしている。 本書では、古くから知られるペニシリンから、最近の新型コロナワクチンまで、有名な16種類の薬の誕生秘話が描かれている。また、現在の創薬分野に関連する知識や状況についても触れられている。
こんな人に 読んでほしい	研究に関わる人、関わりたい人
おすすめ コメント	皆さん一度は聞いたことがある薬の誕生物語が取り上げられています。様々なドラマがあり、興味深い一冊です。

配置場所は[こちら](#)↓



化学生命工学科／小森 喜久夫